

# 躍 YAKUDO! 動

# SPORTS

山形市体育協会だより

第6号

## SPORTS PEAK PERFORMANCE



財団法人 山形市体育協会

### スポーツ都市山形を目指して

#### 読売巨人軍

#### 工藤公康投手と語る

## 「家庭と子供とスポーツと」



(財)山形市体育協会が主催となり、スポーツ都市山形を目指す事業の一環として、プロ野球・読売巨人軍の工藤公康投手を講師に招き、野球教室とスポーツフォーラムを11月29日(土)に山形市総合スポーツセンターで開催した。市内外から詰めかけた約1,700人が工藤投手の指導に熱心に耳を傾けた。

野球教室では、山形市内の小中学生約110名が参加し、工藤投手に同行した千葉ロッテの川井貴志投手も指導に当たった。工藤投手は、「よい球を投げるには、力に頼らず基本のフォームが大切」などと説明し、実際にキャッチボールをさせながら指導していた。参加者は、プロ選手からの実演指導に関心しながら熱心に練習に取り組んでいた様子が見受けられた。

スポーツフォーラムでは、スポーツに対する取り組み方や日常生活、食事の取り方等の重要性を教えていた。



# 頂点

P E A K

## 西田 崇

Takashi Nishida

僕は、九八年の長野オリンピックで始めて正式種目となったスノーボードハーフパイプ種目に出場しました。地元日本開催、さらに新種目ということもあり話題性もあったので、ここで目立って歴史に名を刻みたいと思いついた大会でもありません。オリンピックの前年のワールドカップでは、表彰台にも上がっていたので、多少の自信はあったのですが、終わってみればいつもの滑りが出来ず予選落ちと、本当に悔しい思いをしました。そもそも、スノーボードがオリンピックの正式種目になったのが、開催の二シーズン前で、当時趣味の延長で楽しくスノーボードをしていましたが、たまたま出た大会で上位に入りナショナルチームに選ばれたので、オリンピックに出られるんだと思ったらメダルが欲しいな！ぐらいの乗りでナショナルチーム入りしましたが、合宿に行く朝早く起きてランニングをさせら

れたり、食物の指導を受けたりと、何もかもそれまでの好きな時に滑って、好きな大会だけに出て、などと言う訳に行かず、でも管理されるのは嫌でコーチと殴り合いの喧嘩もしました。今思うとそれはそれで懐かしい思い出です。しかし、こうして長野オリンピックでの成績や本番での滑りの事を思い出すと、やはり出場した嬉しさよりも、自分本来の滑りが出来なかった悔しさの方がほとんどです。でも、最近の僕は大会に出場し成績を上げる事よりも、プロスノーボーダーとして良い映像や写真をたくさん残し、媒体を使ってスノーボード本来の楽しさや、素晴らしさを世界に広げて行くのが仕事ですが、出来ればいつまでもスノーボードを続け、レジャー&スポーツとしても、もっと社会性のあるものになりたいとも思ってるし、このようなスノーボードの活動を通して、地域や業界

を活性化させる事で、長野オリンピックに出場した事も価値がでて来ると思いますし、このような活動で予選落ちのリベンジをしたいと思っています。また、いつかは、山形のスノーボーダーがオリンピックでメダルを取ってくれたらいいなと思います。

### 西田 崇氏

一九七六年生まれ。日本大学山形高等学校卒。

スノーボードハーフパイプで、長野オリンピックに出場し二十八位の成績を収める。

#### 【九七年〜九八年】

- 十一月 FISスバルインブレッサー一位
- 一月 ISFプロツアー北志賀一位
- FIS上林スノーボードカップ第一戦 二位
- FIS上林スノーボードカップ第二戦 三位
- 二月 長野オリンピック 二十八位
- 三月 FIS全日本スノーボード選手権一位
- FIS世界ハーフパイプ総合 三十四位
- FIS全日本ハーフパイプ総合 一位



現在の職業は、  
プロスノーボー  
ダー(RIDE  
/COLLC)。

# 輝かしき記録に想う



QP獲得可能な試合は、アジア選手権のみとなっていました。現在はそ  
のアジア選手権へ向け、毎日練習の日々を送っています。私が射撃を続けていられるのも、私を支援して暖かく見守ってくれている方々が大勢いてくれるからこそと感謝しています。良いご報告ができますよう、精一杯がんばりますので、これからもみなさまのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## ワールドカップに出場して

射撃(日立ハイテクノロジーズ) 相澤 悠子

ライフル射撃と聞いてすぐにはどのようなスポーツなのか思い浮かべることができない方はあまり多くはないと思います。私の行っている競技は大きく分けて、一〇mのエアーライフル種目と五〇mのスマールボアライフル種目の二つです。ライフル射撃にもアジア大会、世界選手権があり、そしてワールドカップがあります。ワールドカップはスキー種目などと同様、年に複数開催され、今年、私はザグレブワールドカップ、ミュンヘンワールドカップ、チャンウォンワールドカップの三大会へ参加しました。ワールドカップ参加の目的はQP(オリンピック出場枠)獲得にあります。QPの獲得できるアジア選手権一試合を残し、ライフル競技のQP獲得種目は一〇mのエアーライフル女子のみです。獲得したのは、日立情報システムズの三崎宏美選手で、チャンウォンワールドカップのことでした。

私は海外試合は二年前から参加するようになり、今回の三大会のスマールボアライフル種目の成績はどれも最近のベストといえる点数で、自分の可能性や未知への挑戦に対し、期待が高まる一方で、しかし、私のベストの記録をもつていても、QP獲得はおろか、決勝へも残ることができないという結果に、自分の未熟さや、日本のレベルの低さ、オリンピックのハードルの高さを痛感しました。そして、トップ選手の射撃を間近で見ることができ、私の違いは何なのか、これから私は何をしなければならぬのかというさまざまな疑問、漠然とした憧れではなく、私もこの中で争うような選手になりたいという現実的な目標を捉えることができ、意識改革という点でもすばらしい試合経験となりました。

## 全日本学生選手権競技大会 ロードレースについて

自転車(法政大学)

土井 雪 広

二〇〇三年六月九日、全日本学生選手権大会に出場し先月行われた門田杯U-23大会に引き続き優勝を飾った。

この大会は学生の中ではもっとも大きな大会で優勝できてほっとしています。なぜなら、先月行われた門田杯でぶつぎりで優勝を飾っていたため、この試合は負けられない試合のひとつでした。しかし、この大会の二週前の朝練習中に転倒し、左手を骨折してこの大会出場も危ぶまれていた中の優勝でした。門田杯の時とは積極的なレースをやった僕でしたが、今回の学生選手権は左手の骨折もあったため最小限の力で勝ちを狙うレース展開を想定しました。もちろん、左手はギブスはめたままです(苦笑)。二〇周するレースの中で僕はあまり動かず集団の中で周回を重ねた。終盤ラスト五周に入るところから自ら集団に揺さぶりをかけて単独で集団から抜け出した。門田杯ではこのままゴールまで独走逃げ切り優勝できたのですが、今回は手の痛さにペースが上がらず、辻龍一君(京都産業大学)に追いつかれた。この時、この日の自分のコンディションを考え、あえて攻撃に走るりはせずに逆に辻君を利用して走りました。結局、自分のレース展開の想定どおり、ゴール前で辻君を交わし優勝した。骨折しているにもかかわらず自分のレース展開通りの走りができ、とても満足しています。来年は大学を中退し、大阪のシマノレーシングチームで競技を続ける予定です。これからも応援よろしく申し上げます。



## 日本学生選手権について

水泳(筑波大学)

齋藤 利樹

私は、二〇〇三年九月に行われた日本学生選手権において、四〇〇mメドレーリレーで優勝する事が出来た。私は現在筑波大学の四年で、今大会は大学生活最後の試合であった。今年のチームはインカレ総合優勝という目標があり、このリレーは絶対に獲らなくてはならない種目である。正直自分の気持ちは結果がどうであれ、最後は笑って終わりたいと考えていた。ところが、平泳ぎの個人種目では、ベスト記録を出せたが表彰台に立つ事が出来なかった事もあり、このリレーでは絶対に勝ちたい気持ちで一杯だった。今まで積み重ねてきたものが、無駄になる事がないように、後悔だけはしたくない、そんな不安が心にあった。レース直前に観客席で応援してくれている仲間を見て、勝ちたいという気持ちが自然に、絶対に勝てるという自信に変わっていた。その結果、四人とも実力を発揮し大会新記録を樹立しての優勝を勝ち取る事が出来た。



近年、日本水泳界のレベルも一段と上がり、大変注目されている。そこで戦える自分、そしてチーム一丸となって共に戦えた事を誇りに思う。今大会において、私自身の競技生活が始まってからの自問自答「なぜ泳ぐのか?」という問いに対する一つの答えが出た気がする。この晴れ舞台に立ち、自分の出来る事、今まで積み重ねてきた努力を見せる事が出来た。自分には、まだまだ可能性があると信じている。この可能性こそが、今まで水泳という競技を続ける事が出来た理由でもあり、力になっていたのであろう。一つの事を最後までやり遂げる事は容易な事ではなく、継続する事はさらに難しい。それには、やりたい事を好きになる事が大切だと思ふ。

今後も沢山の人に水泳という競技を知ってもらいたいし、実際に体験してもらいたい。私も、今まで学んできた事を無駄にせず、水泳との関わりをもつて行きたい。

# 輝かしく記録に想う

「大会を終えて」

馬術（上山明新館高校）

浅野 一行

今年、僕達がインターハイで優勝することができたのは、たくさんの方々の支えがあったからだと思います。

三年間、部活動が続けてきて感じたことは、自分達がいかに多くの人に支えてもらっているかということ。僕は競馬場関係者の方々から大きな協力をしていただきました。練習や試合でも、辛い時も苦しい時も、嬉しい時も楽しい時も、いつもそばには、仲間がいてコーチがいて僕達を応援して下さっているたくさんの方がいて、そしてなにより、愛する馬達がいました。

このようにたくさんの方々を支えられ、勇気づけられて優勝できたことは、今までの人生でも、これからの人生でも最高の思い出になると思います。



「仲間で勝ち取った優勝」

馬術（上山明新館高校）

佐藤 博幸

私は、東北大会で緊張のあまり大きなミスをしました。三年生の落胆した顔を見た時、申し訳ないという気持ちでいっぱいでした、それから、三年生のためにも、自分に負けないためにも必死になって練習をしました。

七月二十八日、むかえた決勝戦。私は最終競技者としてスタートに立ちました。前の障害以外は何も目に入らず、コーチの声だけが聞こえてきました。スタートした後は無我夢中でした。ゴールを切ると大きな喚声に包まれました。私はプレッシャーに負けずに飛べました。コーチの指示通りの飛越ができました。



競技を終え、

無事優勝できた時の気持ちは、一生忘れられないものになりました。上山競馬の廃止が決まった今も、来年の大会に出場できるよう、毎日練習に励んでいます。

私達を支えてくださった監督、コーチそして多くの方々のおかげで、感謝申し上げます。

「三段跳」と出会って

陸上（霞城学園高校）

荒井 宏樹

去年の八月八日から十日にかけて、東京の国立競技場で行われた「第三十八回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会」の「三段跳」において、十三m四十一の自己最高記録をマークし、念願だった全国初優勝をすることができました。

私が「三段跳」と出会ったのは、陸上競技部の顧問である鬼海博行先生の勧めがきっかけでした。初めは、「霞城学園に来てから本格的に陸上競技を始めた私に、三段跳なんて出来るのだろうか」という不安はありましたが、鬼海先生の、「三段跳は、高校から始める人がほとんどなんだ。」という言葉に、「それならば、やってみよう」と思

い「三段跳」を始めたのです。 「三段跳」を始めた頃は、足の運び方やリズムの取り方を身に付けるのに非常に苦労しましたが、練習を重ねていくうちに記録も徐々に伸び、跳ぶことが楽しくなっていました。

そして、初の全国大会で第三位という成績を取めたのです。この成果を励みに、その後の練習に力を注いでいきました。しかし、二年目の全国大会を目前とした練習中に右足大腿部裏の肉離れを起こし、二度目の全国大会は、予選落ちという不本意な結果となってしまいました。

この悔しさをバネに、私は日々の練習を重ねていきました。今年度の全国大会の直前にもケガ（左足大腿部裏の肉離れ）をしてしまいましたが、Ⅲ部陸上競技部顧問の相澤美奈子先生が紹介して下さった鍼治療によって完治。万全の状態で試合に臨むことができ、見事、優勝。優勝した時、私は「三段跳」を続けてきて本当に良かったと思いました。



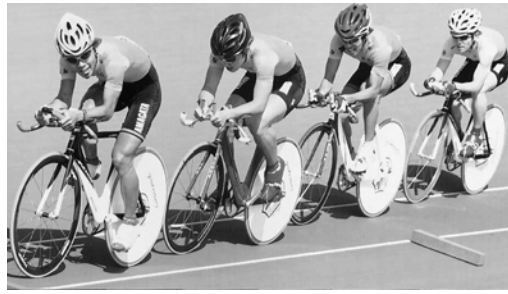
これまで私を支えて下さった方々に、本当に感謝しています。ありがとうございました。



陸上男子棒高跳び  
今井 潤



なぎなた  
鍋倉 智



自転車成年4,000m団体追抜き  
県選抜チーム



水球  
山形工業高  
写真提供:山形新聞社

☆国際大会入賞者

競技	氏名	所属	種目	成績
ライフル射撃	相澤 悠子	日立ハイテクノロジーズ	射撃ワールドカップ・ザグレブ大会 女子エアライフル立射	24位
			射撃ワールドカップ・ザグレブ大会 女子スモールボアライフル三姿勢	23位
			射撃ワールドカップ・ミュンヘン大会 女子エアライフル立射	83位
			射撃ワールドカップ・ミュンヘン大会 女子スモールボアライフル三姿勢	10位
			射撃ワールドカップ・チャンウォン大会 女子スモールボアライフル三姿勢	10位
水球	荒井 桃子	聖徳大学	世界水泳選手権大会 女子水球競技	11位
			アテネ五輪アジア予選会	2位
			世界水泳選手権大会 男子水球競技	15位
			アテネ五輪アジア予選会	2位
水球	長沼 敦	日本体育大学	世界水泳選手権大会 男子水球競技	15位
			アテネ五輪アジア予選会	2位

☆日本選手権大会 入賞者

水球	長沼 敦	日本体育大学		優勝
----	------	--------	--	----

☆全国女子水球競技大会

水球	荒井 桃子	聖徳クラブ		3位
----	-------	-------	--	----

☆第58回国民体育大会 夏季・秋季大会 入賞者

水泳	渡邊 直幸	中央大学	成年男子400mメドレーリレー	5位
	齋藤 利樹	筑波大学	成年男子100m背泳ぎ	7位
	庄司 有太	中央大学	成年男子400mメドレーリレー	5位
	粟野 道	日本大学		
	那須 翔太	巨大山形高	少年男子800mリレー	7位
水球	小玉健太郎・中嶋 邦尋	山形工業高		8位
	安達 宏司・菅原 社大			
	菅原 剛・庄司 諭			
	吉本 達哉・村上 卓也			
	勝見 智嗣・阿部 晃三			
レスリング	池田 孝之	県体育協会	成年男子フリースタイル66kg級	2位
馬術	浅野 一行	上山明新館高	少年団体障害飛越	4位
	二位 関 堯	山形東高		
自転車	土井 雪広	法政大学	成年400m団体追抜競走	4位
空手	安達 善也	山形市役所	成年男子組手個人中量級	5位
ライフル射撃	新宮 由貴	山形城北高	少年女子チームライフル立射 (40発)	6位
陸上	今井 潤	山形市役所	成年男子棒高跳び	6位
	大澤 勉	山形大学	成年男子400mハードル	8位

☆第3回障害者スポーツ大会・わかふじ大会

陸上	布施 隼人	県立山形聾学校	男子やり投げ (聴覚-1部)	優勝
----	-------	---------	----------------	----

☆全日本学生選手権

自転車	土井 雪広	法政大学	男子100km 個人ロードレース	優勝
水泳	齋藤 利樹	筑波大学	男子400mメドレーリレー	優勝
	庄司 有太	中央大学	男子200m個人メドレー	2位
水球	長沼 敦	日本体育大学	全日本学生選手権大会 水球競技	優勝
	荒井 桃子	聖徳大学	日本学生選手権大会 水球競技	3位

☆全国高等学校総合体育大会 入賞者

水球	小玉健太郎・中嶋 邦尋	山形工業高		2位
	安達 宏司・菅原 社大			
	菅原 剛・庄司 諭			
	吉本 達哉・村上 卓也			
	勝見 智嗣・阿部 晃三			
レスリング	高橋 治雄	山形商業高	団体	3位
フェンシング	伊勢 裕一	山形東高	男子サーブル	8位

☆全国高等学校競技別選手権大会 入賞者

馬術	浅野 一行	上山明新館高	団体障害飛越	優勝
----	-------	--------	--------	----

☆全国高等学校定時制通信制体育大会 入賞者

陸上	荒井 宏樹	霞城学園高	男子三段跳	優勝
	田中 秀典	霞城学園高	男子400mハードル	4位
	菊地 久実	霞城学園高	女子400mリレー	5位
	菊地 結実			

☆全国中学校体育大会 入賞者

なぎなた	鎌倉 智	山形三中	個人	2位
柔道	蜂屋 優誠	山形七中	男子90kg級	3位
	中里麻利恵	山形十中	個人総合	4位
新体操	庄司 七瀬	山形三中	種目別ロープ	3位
			個人総合	5位
			種目別ロープ	4位
			リボン	6位
バレーボール	大場 直美・佐藤 貴恵	山形四中女子		5位
	小谷 奏美・佐藤 李奈			
	熊谷 有華・池野 美波			
	海藤 綾・山川 智恵			
	武田 穂 小 鹿 友 美			
	鈴木 志穂・丹野 美美			

## 山形市体操協会

会長 岩田 邦弘

山形市体操協会は、山形県体操協会創立（昭和二十二年）後、まもなく発足し、現在五代目の会長となります。

本会は、学連（二）・高体連（八）・中体連（六）・ジュニア（四）・村山地区OB会OG会の加盟団体で構成されています。登録者数は、年々減少傾向（特に体操競技）にあり苦慮しています。また、本会は、体操競技、新体操の普及発展をめざし、一、強化と普及 一、各種競技会開催 一、講習会・講演会・実演会・研究会開催などの事業を実施しています。

## ※主な事業

一、市体操協会単独事業として、「山形市ジュニア体操選手権大会」があります。これは、平成四年開催の「べにばな国体」に地元山形市出身選手を育成し、活躍出来ることを願ひ、強化策の一つとして昭和六十三年に開催され、今年で第十六回目となります。

毎年一五〇名余りの参加者（体操競技・新体操）があり、幼児から中学生まで、各クラス別に競いあう大会です。この大会の特色は、参加範囲を山形市内だけにとどまらず、南は置賜地区、

北は最北地区まで拡大し、将来有望な選手の育成をめざしているところにあります。

二、ジュニアの育成として、①山形ちびっこ体操教室②山形ジュニア新体操クラブ③城北ジュニア新体操クラブ④カワイイ体育教室の四団体があり、底辺拡大と強化両面で頑張っています。なかでも、新体操の指導は活発で全国優勝をはじめ、上位入賞者を多数輩出しており、今後も期待している活動です。

## ※今後の課題

合併や総合型地域スポーツクラブの関連から見た組織のあり方と競技人口減の問題を中心課題とし、前進できるように努力していきたいと思ひます。

## 山形市ペタンク協会

会長 宇野 靖介

山形市ペタンク協会は、平成四年に県協会設立と同時に二十人たらずで発足しました。その年に第一回山形県健康福祉祭ペタンク大会が開催されましたが、ペタンク用具が少ない為に日本ペタンク協会より用具の貸し出しを受け、当地における第一回のペタンク大会としては望外の五十一チーム一五

三名の参加を得て盛大に開催することが出来ました。これを機会に講習会を重ねて普及拡大、技術の向上に努力してまいります。

山形市ペタンク協会には、現在市内に六ブロックがありそれぞれに練習をしております。尚、平成九年第十回全国健康福祉祭（ねりんピック山形）ペタンク大会に向け審判員、補助員の養成にあたりました。

その後、第十二回全国スポーツレクリエーション祭ペタンク大会があり、今年も、全国ニューススポーツフェスティバル二〇〇三山形が開催されました。

毎年主な大会は、日本ペタンク協会公認の山形「べにばな」ペタンク大会、山形「花笠」ペタンク大会、山形県ペタンク選手権大会の三大大会があります。それには、県外からの参加者も増えて

来ております。

山形県健康福祉祭、山形県スポーツレクリエーション祭、山形県老人クラブ連合会長杯大会、山形県レクリエーション大会、山形県ティールダブルス大会、山形市長杯ペタンク大会、山形市民ペタンク大会等が開催されています。ペタンクジャパンオープン大会、日本ペタンク選手権大会、その他各都道府県大会、各市町村で行われる大会にも参加致しております。

ペタンクは、ルールが簡単で誰でも、何処でも、初めてでも、ほんの少しのスペースがあれば気軽にプレーができます。総ての大会が、協会員以外の愛好者でも気軽に参加出来る催しになっています。



# [ 山形市体育協会、今昔 ]

昭和50年度市体協新組織でのスタート 荒木 善行(市体育協会顧問)

年が明けて昭和五十年四月、私は昨年から課題としてきた市体協の組織改革(改組検討委員会)の討議を早速お願いした。出席者は、理事長荒木・安藤重雄・佐々木源治・石川清秀・青山憲好・室岡昭・逸見啓と事務局側として下園課長(四月一日赴任)・田崎主幹・中村係長・森谷主査であった。

私の組織改革の狙いは、①市体協の主体性の確立、②加盟団体の要望を反映できる組織、③スポーツ愛好者団体の体協加盟の可能な組織、④体育指導員、スポーツ指導員を体協組織の中に位置づける四本柱であった。具体的には理事会を三つの専門部、即ち総務部(企画、会議、運営、庶務、会計)、競技部(計画立案、競技力向上、企画運営)、普及部(クラブ育成指導、指導者の把握と派遣、クラブ行事の指導奨励)に分け、全理事がいずれかの専門部に所属してもらう事であった。そのことによつて各理事は、市体協運営執行の担い手であり、各種目団体は市体協傘下の団体でもある事の認識と関心を持って貰うことを期待したのである。山形市体協の生い立ちは、スポーツ種目団体の集合体で形成されているため、自己の種目団体の上下関係には強い関心を持つが、市体協活動となるとイエスマンでいけば通るといふ考えが支配的であったのである。そのため、スポーツの普及は種目団体を通じてのみ行われ、一般市民愛好者の近寄り難いイメージがあった。しかし当時は、スポーツが一部の愛好者団体の独占物だった時代から、市民一人ひとりがスポーツ活動によつて健康と喜び楽しさを享受できるように、スポーツの機会を多く与えるべきだとの考えが強く叫ばれ始めていたのである。しかも、スポーツを身体の発育発達刺激としてのみならず、スポーツ文化として豊かな人生、楽しい明るい社会の形成に役立つ事が強調されつつあったのである。生活スポーツ、生涯スポーツへの普及発展であった。

市体協組織改革検討委員会は、種々実施面での課題を明確にし、市体協が生涯スポーツの先導役をやらねばならないと考え、改革案を了承した。五月十五日、昭和五十年度市体協理事会は、新副会長安藤重雄の就任と市体協規約改正(組織改革、三専門部制採用)を承認し、装いを新たにスタートした。

## 金井におけるスポーツの振興について

金井体育振興会長 熊谷正明

### 一、スポーツ導入の歴史

金井尋常小学校が明治三十三年に開校され、当時としては例外なく徒手操を中心としたドイツ体操を実施していた。その後は富岡強平策に則り、兵式訓練、長・短距離走、柔・剣道が実施されるようになった。大正期(十二年頃)には、西欧式球技、バスケット、バレー、サッカーが学校体育の中に導入され、このことが近代スポーツ種目が村民にも紹介されるようになっていった。特にバスケットは、大正末期から昭和十年頃まで急速に広まったスポーツである。第二次世界大戦終了後(昭和二十三年頃)、学生会(新生高校入学者)メンバーによる小学校での活動は、当時の小・中学校の生徒にスポーツの楽しさをそれとなく教えていた。

### 二、競技の定着と気質

昭和二十七年、金井中学校が特別教育活動(生徒会、部活動)の県の研究指定校となり、地区、学校、生徒共に研究に励み、スポーツ競技の定着化が開かれた。町民のスポーツに対する熱心さは金井中にある九部の運動部のうち八部が県優勝を成し遂げており、親から子へ確かな伝承が伝統となり、競技を続ける粘着気質が生まれたとしても過言ではない。

### 三、現在の体育諸行事あれこれ

体育振興会が担当する諸行事は、リングカントリー大会、ソフトボール大会、地区運動会、市民運動会参加、文化祭時のロードレース、つなぎ、バレーボール大会であり、子供会が主催する球技大会(ドッジボール、ソフトボール)、スノーケル大会がある。また、老人クラブ、その他有志によるゲートボール、グラウンドゴルフなどが実施され、町民の親睦、融和、若さの保持、健康安全を日常から実践している。体育振興会の働きが十分機能されるよう、町内会連合会、公民館が少なからずバックアップしている。今後においては、各種青年層のソフト、サッカー、バスケット、バレークラブ等のクラブ員の積極的参加を望みたいところである。

## 第22回山形市民総合運動会

10月12日(日)、第22回山形市民総合運動会が山形市陸上競技場を会場に開催された。小雨まじりの曇り空とあいにくの天候となったが、市内30地区から集まった約6,000名の選手が7種目において熱戦を繰り広げた。

また、前回大会から設けられた「応援賞」には、今年新たに「(財)山形市体育協会長賞」も新設され、地域ぐるみでの応援への取り組みがより評価される内容となった。

そのせいもあってか、会場内は応援の衣装や音楽、郷土芸能などで大いに盛り上がった。

総合成績では、鈴川地区が優勝し、大首根地区の連覇を阻んだ。応援賞では千歳地区が抜群の存在感を示し、最優秀賞を獲得した。入賞地区は、次のとおり。

総合成績		応援賞	
優勝	鈴川地区	最優秀賞	千歳地区
準優勝	第三地区	優秀賞	第三地区
第3位	第十地区	優秀賞	鈴川地区
第4位	本沢地区	(財)山形市体育協会長賞	
第5位	村木沢地区		南山形地区
第6位	大首根地区		大首根地区



参加していただいた  
みなさん、  
ありがとうございました。

### ジュニアスポーツスクール

**主 旨** 山形市在住の小学4年生から6年生までの高学年を対象とした、誰でも楽しめる生涯スポーツ的なニュースポーツを取り入れ、スポーツの楽しさや協調性を学んでもらい、運動能力の資質向上を図る。

**実施期日・内容・講師**

実施期日	内 容	講 師
平成16年1月27日(火) 19:00~21:00	キンボール	(財)山形市体育協会 スポーツ指導員
平成16年2月3日(火) 19:00~21:00	ソフトバレーボール	山形市女性体育指導員
平成16年2月10日(火) 19:00~21:00	エアロビクス	山形県エアロビクス協会 伊藤 咲良氏
平成16年2月17日(火) 19:00~21:00	スポーツチャンバラ	山形市スポーツチャンバラ協会 遠藤 仁氏

**場 所** 南部体育館

**対 象** 山形市在住の小学4年生~小学6年生までの男女

**応募方法** ※詳しくは(財)山形市体育協会までお問い合わせ下さい。

**保 険** 参加者は全員傷害保険に加入します。

**会 費** 1人1日500円(傷害保険料を含む)

### 第4回 キッズスポーツ教室

**主 旨** スポーツにたずさわる機会が少ないスポーツ少年団に入る前の小学1年生から小学3年生までの低学年を対象とした競技的なスポーツにとられない様々なスポーツを楽しむ機会をつくりスポーツへの関心と、体を動かす楽しさを学んでもらう。

**内 容** ドッジボール・ミニサッカー・キンボール  
**期 日** 平成16年1月11日、18日、25日、2月1日の日曜日、計4回実施  
**時間帯** 9:00~11:30(全日程)

**場 所** 山形市立第五中学校体育館

**対 象** 小学1年生~小学3年生までの男女

**人 数** 50名(男女合わせて)先着順とする。

**指 導 者** 財団法人山形市体育協会スポーツ指導員

**応募方法** ※詳しくは(財)山形市体育協会までお問い合わせ下さい。

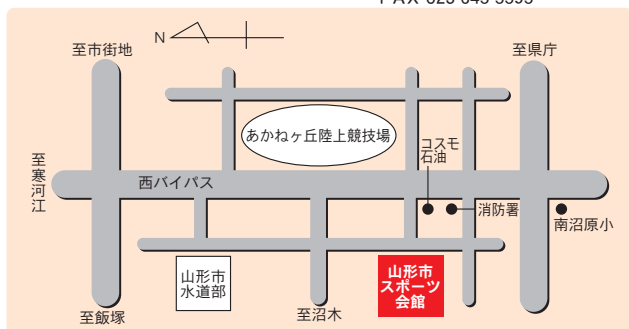
**保 険** 参加者は全員傷害保険に加入します。

**会 費** 1日1回200円  
(傷害保険料を含む)



財団法人 山形市体育協会事務局 (山形市スポーツ会館)

〒990-2477 山形市長苗代61番地 TEL 023-647-4175  
FAX 023-645-5595



### 編集後記

本協会の組織の変更で広報委員会が誕生し、また、今号から新たな編集委員で編集を進めることになりました。今年度は体協だよりの年2回発行に加え広報誌の発行等も実現し少しずつ課題解決に取り組んでおります。今後はホームページの開設に向けて作業を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

広報委員長 工平 貴夫

### 躍動 第6号 2003 December

【発行】 財団法人山形市体育協会

【編集委員】 工平貴夫、後藤正博、須貝秀雄、奥山敏一、冨樫庄一、大坂吉弥、長沼千歳、古山和男、橋本則之、西村久男、地主幸雄、秋葉幸雄

【事務局】 〒990-2477 山形市長苗代61番地 山形市スポーツ会館内 TEL 023-647-4175 FAX 023-645-5595

【印刷】 (株)大風印刷